Zephyros 93

国立西洋美術館ニュース　ゼフュロス

ISSN 1342-8071

Exhibitions

スウェーデン国立美術館 素描コレクション展

ルネサンスからバロックまで

会期：2025年7月1日［火］－9月28日［日］｜会場：企画展示室

1

2

3

1 レンブラント・ファン・レイン《キリスト捕縛》ペン、褐色インク、褐色と灰色の淡彩、白色による修正、紙｜2・表紙（部分）アンニーバレ・カラッチ《画家ルドヴィーコ・カルディ、通称チゴリの肖像》1604-09年頃、赤チョーク、褐色インクによる書き込み、黒インクによる枠線、紙｜3 アルブレヒト・デューラー《三編みの若い女性の肖像》1515年、黒チョーク、木炭、紙｜4 フェデリコ・バロッチ《後ろから見た男性の頭部》黒と赤のチョーク、混色したチョーク、黒の枠線、青色の紙｜5 ニコロ・デッラバーテに帰属《蛙男》ペン、褐色インク、淡い褐色の淡彩、紙（本紙より切り抜いて別紙に貼りつけ）｜6 コルネリス・フィッセル《眠る犬》黒と赤のチョーク、黒の淡彩、黒の枠線、紙

Master Drawings from the Nationalmuseum, Stockholm

Renaissance to Baroque

4

5

6

素描（デッサン、ドローイング）は、木炭やチョーク、ペンなどを用いて描かれた、線描中心の平面作品と定義されます。絵画や彫刻をはじめとする美術作品の構想を練ったり、将来の制作の参考資料とすべく、興味ひかれた対象を写生したり、他者の作品を模写したり…と、さまざまな目的から制作されてきました。あらゆる造形の出発点となるものであり、ゆえに、16-17世紀の美術文献では、高度な知的営みにして諸芸術の基盤である、ととらえられています。また一方で、素描ならではの造形的特質を評価され、それ自体が独立した美術作品、すなわち鑑賞の対象として受容されることもありました。

ときに作家の創造の秘密を垣間見させ、ときに独特の造形的特質で人々を魅了してきた素描――その世界屈指のコレクションを所蔵する美術館が、スウェーデン国立美術館です。1792年、ストックホルムに開設された同館は、世界で最も古い美術館の一つに数えられます。中世から現代にいたる美術や工芸、デザインを幅広く収蔵していますが、とりわけ素描コレクションの豊かさにおいて知られます。同コレクションの基盤は、スウェーデン国王付きの建築家であったニコデムス・テッシン（1654–1728年）と、彼の息子でやはりスウェーデン王室の廷臣であったカール・グスタフ・テッシン（1695–1770年）によって構築されました。その中核は、当時の著名な収集家ピエール・クロザの旧蔵品であり、歴史的に見ても非常に興味深いコレクションといえるでしょう。

本展は、この素描コレクションより選りすぐったルネサンスからバロックまでの名品、約80点を中心として、イタリア、フランス、ドイツ、ネーデルラント（現在のオランダ、ベルギーにあたる地域）という地域別の4セクションより構成されます。一連の出品作品を通して、画材や技法、制作目的、あるいは時代や地域によって、多彩な表現を見せる素描の魅力を堪能していただくのが企画の目的です。出品作品の中には、デューラーやレンブラントをはじめ、美術史上における大スターたちの作品が多数含まれており、その確かな技量や表現力に圧倒されること必至です。一方、さほど馴染みのない作家たちの作品の中にも、お気に入りを見つけていただけることと思います。

素描は、環境変化に対して脆弱であるため、展示には制約がつきものです。それゆえ、本展のような規模で西洋素描の展覧会が開催される機会は非常に貴重です。ぜひこの機会に、素描がもつさまざまな魅力をご堪能ください。

［国立西洋美術館主任研究員　中田明日佳］

Exhibitions

ピカソの人物画

会期：2025年6月28日［土］―10月5日［日］

会場：版画素描展示室

パブロ・ピカソ《小さな丸帽子を被った座る女性》1942年 油彩、カンヴァス
国立西洋美術館（井内コレクションより寄託）© 2025 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

20世紀美術の巨匠パブロ・ピカソ（1881-1973年）は、何よりも「人」を描いた画家と言えます。彼は、生と死、戦争と平和、愛と欲望といった私たちを取り巻くあらゆるテーマや感情に向き合い、強い存在感を放つ人間像を生み出し続けました。本展は、ピカソの人物画に焦点を当てることで、この芸術家の核心に迫ろうとするものです。

ピカソは、母国スペインの美術学校における写生デッサンの訓練を通して、人体を解剖学的に把握し正確に再現するための基礎を学びました。独学で学んだカリカチュア（特徴を大げさに強調して描いた風刺画・戯画）の手法は、ピカソの人物像における単純化や誇張、デフォルメの表現に生かされます。一方キュビスムの発明は、理想的な人体美の伝統を根底から覆し、人物画を新たな造形実験のための場へと転換させました。ピカソの人物画の主題は、初期には社会から疎外された人々、両大戦間には古典古代、晩年には「画家とモデル」など多岐に及びますが、生涯にわたり中心的な位置を占めたのは肖像画です。それらの多くは従来のような注文制作ではなく、家族や友人、とりわけ最も身近な存在であった恋人たちを自由に何度も描いたものでした。ピカソにとって肖像画とは、描かれる人物と関係を築いたり確かめたりするための一つのツールでもあったのです。

本展は、近年多数の寄託作品により拡充された当館のピカソ・コレクションをまとめてご紹介するまたとない機会となります。さらに国内の美術館のご所蔵品若干数を加えた絵画、素描、版画、資料34点を通して、画家の青年期から晩年に至る人物画の表現と主題、その革新性と多様性をご覧いただきます。

［国立西洋美術館特定研究員 久保田有寿］

Collection

2025年度Collection in FOCUS

国立西洋美術館における額縁の保存・修復

皆さんは、絵画作品を固定・保護している額縁も絵画作品と同レベルで保存修復していることをご存じでしょうか？

当館では、もともと作品に装着されていた額縁を外し、作品の時代や地域にそぐわない様式の額縁に交換された作品がいくつも存在します。作品同様、額縁修復には時間・お金・労力がかかります。そのため、額縁に不具合があっても、時間・お金・労力のいずれかが不足していた場合には、短時間・安価・容易に出来る方法を選択せざるを得ませんでした。近年では、絵画作品の修復と並行して、もともとの額縁を修復・改修、入れ替え作業を徐々に進めています。

また、既存の額縁を安全に保存するために、他館への貸出専用額縁を作成することもあります。作品状態が良好で、当館で特別な使用目的が無ければ、他館からの貸出リクエストに応じて、作品を貸し出しています。しかし額縁の構造・形状が脆弱・繊細で、輸送時の振動などによる損傷発生の可能性が高い場合には、貸出リクエストを断るのではなく、貸出専用の額縁「トラベリング額」を作成、額装しなおして貸出すのです。

常設展示室内Collection in FOCUSのひとつとして、ピエール＝オーギュスト・ルノワール《横たわる浴女》（P.1974-0002）の額縁保存、および、ヤーコプ・ヨルダーンス《聖家族》（P.2005-0006）の額縁修復の詳細をご紹介していますので、是非ご覧ください。

［国立西洋美術館主任研究員 邊牟木尚美］

Collection in FOCUS

［2025年度ラインナップ］

- 国立西洋美術館における額縁の保存・修復（本館2階）
- 幻想の実験場――「聖アントニウスの誘惑」が醸成した想像力をめぐって（本館2階）
- クールベとパリ・コミューン（新館2階）
- ブラックの静物画――手で触れることのできる空間を求めて（新館1階）

© 上野則宏

Program

障がいのある方のための特別鑑賞会

国立西洋美術館 公式ウェブサイト バリアフリー・アクセシビリティ情報
https://www.nmwa.go.jp/jp/visit/accessibility.html

「障がいのある方のための特別鑑賞会」（共催：三菱商事株式会社）を2025年4月14日に開催しました。障害のある方を休館日に無料招待するもので、心身の障害により美術館への外出に困難を感じる方々も安心して来館いただける人気の企画です。この日、108名の方が当館コレクション作品の鑑賞を楽しみました。コロナ禍の休止から6年ぶりの開催となった今回、初の試みとしてアクセシビリティ向上のための取り組みを紹介するコーナーを設けました。スマートフォンにダウンロードできる「音声ガイド」、日本手話による作品解説動画「手話ガイド」（タブレット貸出）のほか、発達障害の方へ向けて美術館の利用法を平易に書いた冊子『ソーシャルストーリー はじめて美術館にいきます。』（発行：国立アートリサーチセンター）、館の概要紹介『点字・触知図ガイドブック』を希望者に配布。彫刻レプリカや触図も展示し、触察も体験していただきました。

また、「解説ツアー」（手話通訳つき）、「見えない・見えにくい人と、見える人が一緒に楽しむ対話型ツアー」を各2回開催。いずれも定員を超える応募があり当日も笑顔や熱気に包まれていました。本企画を通して、誰もが安心して楽しめる美術館の環境づくりには、情報保障の充実や設備面の向上など多角的な視点による取り組みが重要であることを再認識しました。今後もより快適で親しみやすい鑑賞の場を提供できるよう対応を進めていきたいと思います。［国立西洋美術館特定研究員 白濱恵里子］

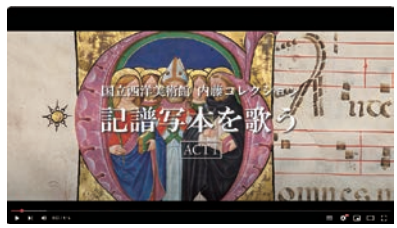
News

写本から響く、いにしえの音楽に耳をすませて

── 動画で楽しむ！ 西美のコレクションと展覧会

国立西洋美術館の公式YouTubeチャンネルでは、所蔵コレクションや展覧会の魅力を紹介する動画を配信しています。このたび公開された「国立西洋美術館 内藤コレクション──記譜写本を歌う」は、企画展「内藤コレクション 写本──いとも優雅なる中世の小宇宙」（2024年8月閉幕）に関連して制作された演奏動画シリーズです。会期中のトーク・コンサートで演奏された楽曲をあらためて録音し、美術館の空間とともに映像化しました。2025年春から夏にかけては、常設展内の写本展示コーナーで関連作品をご覧いただけます。実際の作品を前に、中世の響きに耳をすませてみてはいかがでしょうか。また、動画シリーズ「動画で知る写本の世界」では、写本にまつわる用語や装飾技法などをやさしく解説しています。演奏動画とあわせてご覧いただくことで、写本の魅力をより立体的に味わっていただけることでしょう。このほか、企画展・小企画展に関連したイベント映像や紹介動画、「国立西洋美術館コレクション紹介」などの定番シリーズも充実。作品の背景にふれる動画は、展覧会の予習・復習にもおすすめです。日々のなかで、美術館とつながるひとときとして。ぜひチャンネル登録してご覧ください。

［国立西洋美術館特定研究員 風戸美伶］



動画シリーズ
「国立西洋美術館 内藤コレクション──記譜写本を歌う」よりACT1
（パヴィアのサン・サルヴァトーレ聖堂のミサ聖歌集の画家（彩飾）《ミサ聖歌集零葉》、2025年4月14日配信）

国立西洋美術館 公式YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/@NMWATokyo

News

特設サイト「みんなの3Dロダン図鑑」を開設

「みんなの3Dロダン図鑑」はこちらから

クラウドファンディングによるご支援を通じて制作した特設サイト「みんなの3Dロダン図鑑」を、4月8日に公開いたしました。このサイトでは、スマートフォンやPCがあれば、だれでも、どこからでも当館所蔵のロダン彫刻作品全60点の3Dモデルをご覧いただけます。拡大したり、360度回転させたり、巨大作品を上から見たり。これまでにない鑑賞体験を通じて、彫刻の新たな魅力を発見してください。3Dモデルの一覧に加え、彫刻の鑑賞方法がよくわからないという方、彫刻やロダンについてもっと深く知りたいという方に向け、次のようなコンテンツも掲載しております。さまざまな分野で活躍する方々に、当館所蔵のロダン彫刻から「推し」作品について語っていただく「私の推しロダン」。各分野の専門家が、ロダンや彫刻に関するテーマに沿って深堀りトークをする「ロダンと彫刻をめぐるストーリー」。当館の基礎である松方コレクションにおけるロダン彫刻の歴史について当館主任研究員が語る「ロダンと松方と国立西洋美術館」。主に学校の授業や事前学習で活用いただけるよう、彫刻作品の鑑賞のポイントなどをわかりやすく解説した「学校団体に向けて」。ご自身のご興味・ご関心に合わせて、各コンテンツをお楽しみいただけますと幸いです。 ［国立西洋美術館経営企画・広報渉外室 隈部理香子］

［CAFÉ すいれん］

営業時間：10:00–17:30（食事11:00–16:45 L.O.｜喫茶10:00–17:15 L.O.）／金・土曜日10:00–20:00（食事11:00–19:10 L.O.｜喫茶10:00–19:30 L.O.）

［ミュージアムショップ］

当館が所蔵するクロード・モネの作品から、4つの絵画のキーホルダーを販売中です。

キーホルダーの企画にあたり、まず特に人気の高い《睡蓮》を選び、「いつでもどこでも携帯できるミニチュア絵画」というコンセプトを念頭に、手のひらに収まる大きさにこだわりつつ、可能な限り絵画をそのまま落とし込むこととして、小ぶりな正方形に統一しました。《睡蓮》、《ヴェトゥイユ》、《舟遊び》はどれも作品をほぼトリミングすることなく配置しています。《雪のアルジャントゥイユ》は長方形の作品ですが、窓から外を眺めるイメージで絵を正方形にはめこみました。

アクリル素材の透明感と発色の良さを生かしてモネならではの明るい色合いを表現し、裏面には当館のロゴマークを入れています。

絵柄違いで複数お求めいただくことも多い人気商品です。今後もどの絵画がキーホルダーになるか、楽しみにお待ちください。

1キーホルダー 各605円
上段 左から クロード・モネ
《睡蓮》、《雪のアルジャントゥイユ》、
《舟遊び》、《ヴェトゥイユ》、キーホルダー裏面

オンラインショップ
https://www.nmwatokyo-shop.org

ミュージアムショップ公式Instagram
@nmwatokyo_shop

展示カレンダー［常設展示／企画展示］2025年6月—10月

6月［Jun.］　7月［Jul.］　8月［Aug.］　9月［Sep.］　10月［Oct.］

常設展

［小企画展］—6月15日［日］
梶コレクション展—
色彩の宝石、エマーユの美

［企画展］—6月8日［日］
西洋絵画、どこから見るか？
—ルネサンスから印象派まで
サンディエゴ美術館 vs
国立西洋美術館

全館休館 6月23日［月］→6月27日［金］

［小企画展］
6月28日［土］—10月5日［日］
ピカソの人物画

［企画展］
7月1日［火］—9月28日［日］
スウェーデン国立美術館　素描コレクション展—ルネサンスからバロックまで

全館休館 10月6日［月］→10月8日［水］

［開館時間］9:30–17:30（毎週金・土曜日 9:30–20:00）＊入室は閉室の30分前まで
［休館日］月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間、年末年始、臨時休館日
［臨時開館・展示替え休館のお知らせ］
臨時開館：2025年8月12日［火］、9月22日［月］
展示替え休館：2025年6月23日［月］—6月27日［金］、10月6日［月］—10月8日［水］
［常設展無料観覧日］7月13日*、8月10日*、8月23日（おしゃべりOK『にぎやかサタデー』）、9月14日*、10月12日*
（*当館オフィシャルパートナー・川崎重工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日））

- 展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

［常設展］
国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。
中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

国立西洋美術館
The National Museum of Western Art
［東京・上野公園］

国立西洋美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
公式サイト https://www.nmwa.go.jp/
お問い合わせ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

［国立西洋美術館 SNS 公式アカウント］
X @NMWATokyo
Facebook @NationalMuseumofWesternArt
Instagram @NMWATokyo

Zephyros 93
ゼフュロス第93号｜編集・発行：国立西洋美術館／2025年6月16日（年3回発行）｜協力：公益財団法人西洋美術振興財団｜デザイン：木村稔将
「ZEPHYROS」（ゼフュロス）はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさと色さまざまの花々を運ぶ春の風をさします。